

平成 16 年 4 月の解説

【4 月の天気予報から】 上空寒気の影響

26日から27日にかけて、西日本を中心に大雨や強風をもたらした低気圧は、28日の朝には北海道の南東海上に進みました。低気圧が通過すると、天気の回復することが多いのですが、この低気圧の西には寒気を伴った上空の気圧の谷があり、大気の状態が不安定になったため、関東地方では28日の昼頃に一時的に雨や雷雨となりました。また、局地的に雹（ひょう）の降ったところもありました。

この日の朝に発表した東京の天気予報では、昼前から昼過ぎに上空の気圧の谷が通る予想でしたが雨が降るほど不安定ではないとの予報官の判断から、「晴れ昼前から昼過ぎ曇り」としました。実際の天気は、昼前から昼過ぎには曇りとなりましたが、昼前に一時的に雨や雷雨となったところがあり、八王子では雹が降りました。結果として、この日は大気状態の不安定の程度が、予報官の予想以上に大きかったため、雨や雷雨についての的確な予想ができませんでした。

上空に寒気を伴った気圧の谷の通過時には、大気の状態は不安定となり雨が降ったり雷が発生したりすることがあります。このような天気の時、1mm以上の雨の降る領域が対象予報区の50%未満に限られた地域であることが多く、雨の降る地域を正確に予測することもなかなか困難です。このように大気の状態が不安定な場合には、天気予報に雨の予報がついていなくても降水確率が20%など、通常の雨なしの天気予報に比べ大きな値を予報していることがあります。天気予報を利用するときは、降水確率予報も参考に、突然の雨への備えを心がけて頂きたいと思います。

【4 月の天候状況及び検証結果】

低気圧が日本海や沿海州を通過した事例が多く、例年ならこの時期に本州の南岸を通る頻度の多い低気圧が上旬と下旬に各1回と少なかったのが、今年の特徴です。中旬までは周期的に通る移動性高気圧に覆われて全国的に晴れる日が多く、東・西日本を中心に日照時間がかなり多くなりました。下旬は、低気圧が急激に発達しながら短い周期で日本海を通過したため、全国的に荒れた天気となる日もあり、低気圧が通過した後は強い寒気の影響で北日本では雪も降りました。

このような天候状況でしたが、明日予報(17時発表)の「降水の有無」の適中率は、全国平均で例年より4ポイント以上高い89%でした。地方別に見ますと、関東甲信地方と沖縄地方では例年より9ポイント以上も高くなり、東・西日本の全域で90%を超えています。

4月の全般的な気温の状況は、ほぼ全国的に平年の気温を上回りました。下旬は、日本海低気圧に向かって吹く強い南風と通過後に流入した寒気の影響で、全国的に寒暖の変動の大きい時期もありましたが、それでも東・西日本の月平均気温は平年値を1以上も上回っています。

明日予報(17時発表)の最高気温及び最低気温の予報誤差は、北陸地方の最高気温で例年よりやや大きかったものの、その他は例年並のところが多く、全国平均もほぼ例年並(最高気温が2.1、最低気温が1.6)でした。

【天気予報の利用にあたって】

気象庁は、数値予報モデルの改良や予測手法の改善を一層続け、予報精度のさらなる向上を目指しています。しかし、局地的な現象など、まだまだ技術的に予測の難しい場合もありますので、できるだけ最寄りの气象台から発表する最新の天気予報をご利用ください。